

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 新居浜市立泉川小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒 792 - 0815
愛媛県新居浜市岸の上町一丁目13番68号

E-mail izue-ad@esnet.ed.jp

Website <http://izumigawa-e.esnet.ed.jp/>

児童生徒数 男子 260 名 女子 254 名 合計 514 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 テーマ (主題)

「進めよう！エコ・アクション」

～地球環境を守るために、明るい展望をもって気付き、考え、実行する児童の育成～

2 主な活動内容について

①【5年 「米作りについて知ろう」】

(ねらい)

米作りについて関心をもち、田植え・稲刈りの体験活動を通して、環境との関わりを知る。

(活動の実際)

本校では、毎年、5年生が米作り体験をしている。児童にとっては初めての体験であるため、最初に、社会科等で米作りについて調べ学習をした。そして、おいしいお米を作るために必要なことは何かを話し合った。児童からは、肥料、作る人の愛情、適切な温度など、さまざまな意見が出たが、その中から環境に関する「きれいな水」「きれいな空気」「よい土」の3つに絞ることにした。次に、水・土・空気について疑問に思っていることや調べたいことを出し合い、自分が調べたいテーマを決めた。また、しまなみアースランドに行き、学習したことやインターネットなどを使って調べた内容をまとめて発表会を開いた。

そして、6月に、どろんこクラブの方をはじめ、保護者・地域の方々の協力を得て、田植え体験を行った。児童は、滅多にないどろんこ体験に喜び、田の生き物等ともふれあうことができた。10月の稲刈りでも同様に、たくさんの方々の協力を得ることができた。時々生長の様子を見ていた児童もいたが、多くは途中経過を知らず、苗から稲穂へと実った様子に驚いていた。



②【3年 「人々のしごととわたしたちの暮らし」】

(ねらい)

スーパーマーケットで、働く人の仕事とわたしたちの生活とどうつながっているかを調べる活動を通して、環境や資源の大切さについて知る。

(活動の実際)

まず、自分の家の買い物調べをし、よく利用している店を調べた。次に、実際に一番利用しているスーパーマーケットに見学に行き、店の様子を観察したり、店の方のお話を聞くことにより、店内を利用しやすくする工夫や努力を知ることができた。また、見学の際にリサイクルコーナーやレジ袋を使わないように呼びかけているカードなどを見て、資源について考え、環境を大切にする活動をしていることが分かった。また、児童は、限りある資源をこれからも大切にしていきたいと思った。



③【4年 「環境問題について考えよう」】

(ねらい)

身近な環境問題に関心をもち、自分でごみや下水の処理について調べることにより、自分で行動しようとする実践力を身に付ける。

(活動の実際)

まず、社会科の学習で、自分の家のごみ調べから、ごみについて興味をもち、ごみの行方について調べたり、分別について学習したりした。その後、清掃センター・最終処分場・下水処理場を見学した。実際に見学したことで、焼却されるもの、リサイクルされるもの、処分できずに埋め立てられるものがあることが分かった。その後、見てきたことを新聞にまとめ理解を深めた。



また、社会科や総合的な学習の時間に学んだことから、疑問をもったことや興味をもったこと、自分にできること等、一人一人が学習課題を立てて調べ学習に取り組んだ。本やインターネットで調べたことを、自分なりの考えをもってまとめ、発表し合い、環境に対する考えを深めていくことができた。

④【全校活動「ぼくにもわたしにもできるエコ・アクション！」】

(ねらい)

一人一人の環境を守る小さな行動が、大きくて大切な地球を守ることになることを自覚して、進んでエコ活動を行う児童を育てる。

(活動の実際)

毎月第2週目をエコ週間として、環境美化委員会を中心としてエコ活動を行っている。

リサイクル品を回収したり、エコ活動の呼び掛けを行ったりする。また、エコ週間には、振り返りカードを記入することにより、自主的なエコ活動がとれるよう意欲付け・意識付けを図っている。



⑤【全学年 「体験活動・調べ学習の充実」】

本校のESDテーマである「気付き、考え、実行する児童の育成」には、体験活動と調べ学習の充実が不可欠と考えた。そのため、体験学習においては、専門家を講師として招聘して御指導いただいたり調べ学習においては、学校司書と連携して授業を行ったりして、ESD学習の充実を図った。

3 成果と課題

ESDの中心的活動の一つである「あいさつ日本一」の取組については、学校・PTA・地域が一丸となってあいさつ運動を継続している。一方、総合的な学習の時間を中心に取り組んでいる「地球環境」については、「循環型社会」について探究していくことで、身近な環境問題がより広い地域につながっていることや、様々な問題が相互に関わっていることを実感として捉えることができるようになってきた。また、児童一人一人が、持続可能な社会を作っていくために行動できることを具体的に考え始めた。特に充実を図った体験活動の推進により、子どもたちのESDに対する意欲が高まり、自ら進んでESD活動をとる児童が増えてきたように思う。その意欲を大切に、今後継続して行動できるよう支援していきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）